

市民参加型公共施設づくりにおける情報提供方法の有効性

- 世田谷区小学校改築事例を対象として -

日大生産工（院） 星川 瞬
日大生産工 広田 直行

1. 研究の背景と目的

筆者らによる既往研究では、世田谷区学校改築事例を対象に、市民参加型公共施設づくりにおける情報内容・提供主体・提供手法の実態把握から、市民参加に有用な情報について明らかにしている^{*1}。これにより、世田谷区学校改築事例においては、提供主体がほとんど行政であり、行政から地域住民・学校関係者等に情報提供が行われていることが明らかとなっている。

本稿では、引き続き世田谷区学校改築事例を対象に、行政からの情報提供により、地域住民が公共施設づくりに参加した実態の記録から、地域住民の情報提供を公共施設づくりに反映させる機会について分析を行い、市民参加方法の有効性について考察することを目的とする。

2. 研究の方法

地域住民からの情報提供を学校改築に反映させるための機会として、基本構想段階 基本構想説明会 基本設計説明会 建設工事説明会がある。本稿では、地域住民からの情報提供を最も学校改築に反映できる機会といえる、

基本構想段階での市民参加方法の有効性を考察する。

基本構想段階における市民参加方法は、各事例の「学校改築基本構想報告書」の中に資料として、その記録が記載されている。その市民参加方法の記録から分析を行う。

表1に調査対象事例の概要を、表2に各事例の「学校改築基本構想報告書」に記載されている市民参加方法を示す。表2に示す通り、市民参加方法としてNo.8～No.10までの3事例の「基本構想検討委員会議事録」とNo.7事例の地域住民・生徒・併設される児童館利用者への「アンケート」、No.9事例の「基本構想検討委員会議事録」の中に記載されている、小学校5、6年生に

表1 調査対象事例の概要

事例番号	学校名	竣工年月日（予定を含む）	進行状況
No.1	玉川中学校	1995年2月1日	竣工
No.2	中町小学校	1995年2月1日	
No.3	砧南小学校	1997年2月1日	
No.4	八幡山小学校	1998年2月1日	
No.5	桜丘小学校	1999年2月1日	
No.6	東深沢中学校	2000年10月1日	
No.7	烏山中学校	2004年2月1日	工事中
No.8	船橋小学校	2006年	
No.9	駒沢小学校	2008年	
No.10	給田小学校	2009年	基本設計
No.11	松沢小学校	2009年	基本構想

表2 学校改築基本構想報告書からの市民参加方法

事例番号	学校改築基本構想報告書	基本構想検討委員会議事録	地域住民アンケート	生徒アンケート	児童の思い(絵・作文)	児童館利用者アンケート
No.1						
No.2						
No.3						
No.4						
No.5						
No.6	x					
No.7						
No.8						
No.9						
No.10						
No.11						

よる「児童の思い(絵・作文)」がある。これらの市民参加方法別に意見の傾向と市民参加方法との関係を分析し、市民参加方法の有効性について考察する。

3. 市民参加方法別にみる情報内容の分析

3.1 基本構想検討委員会議事録

調査対象となる基本構想検討委員会（以下検討委員会とする）の概要を表3に示し、検討委員会メンバーの構成比を図1に示す。検討委員会は、図1に示すような学校改築に関わる代表者によって構成される。保護者代表、地域住民代表、地域活動団体代表が地域住民側の代表である。

図1より、対象事例における住民代表の構成比をみると、どの事例も約5割となっている。検討委員会では、それぞれの立場から説明・意見・要望を行いながら、基本構想案をまとめる。表3からわかるように、委員会の回数・期間については事例毎にばらつきがみられる。

Effective method of giving information concerning the construction of a citizens' participation type public facility

- Case Study in Setagaya-ku school reconstruction -
Shun HOSHIKAWA and Naoyuki HIROTA

表3 基本構想検討委員会の概要

事例番号	No.8	No.9	No.10
委員会回数(回)	5	6	8
期間(ヶ月)	4	5	20

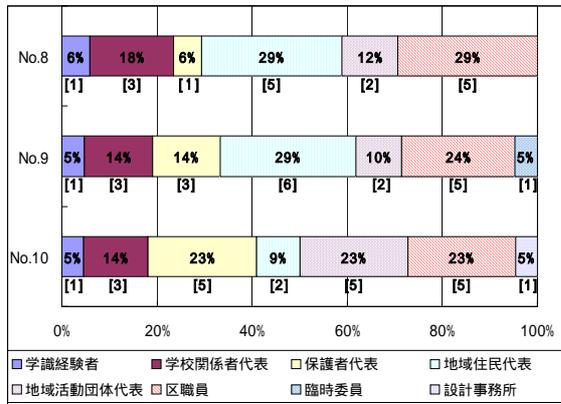


図1 基本構想検討委員会メンバーの構成比

各対象事例における学校改築基本構想報告書に記載されている「基本構想検討委員会議事録」より、検討委員会で出される意見内容について項目別に整理したものを表4に示し、その構成比を図2に示す。図2からわかるように、校舎外部、校舎内部、全体計画といった建築計画に関する意見は全事例において5割前後を占めている。表4からわかるように、建築計画に関する意見内容の内、意見数の多いものとしては、「校庭を十分に確保した計画としてほしい」等の「校庭」に関する意見や、「既存の樹木を残すこと」や「ビオトープ」等の「外部の環境計画」に関する意見、「教室のオープンスペース」に関する意見が挙げられる。いずれも、児童の視点に立ち、より良い学習環境とするための意見である。

図2より、残りの5割の意見内容の内、構成比が高い項目として、「地域性」が挙げられる。5~14%と事例毎の差はあるが、全事例において高い構成比を示している。地域性における意見内容としては、「地域交流・地域開放」に関する意見がほとんどであり、地域開放に伴う「安全性」について危惧している意見が多く挙げられている。

さらに表4より、検討委員会での意見内容の特徴を挙げると、検討内容によって「教員、保護者、子供等の意見を反映させたい」という意見が全事例において挙げられている。このことは、検討委員会が単に代表者の意見を反映する場で

表4 基本構想検討委員会における情報内容一覧

事例番号	No.8		No.9		No.10	
	項目	数	項目	数	項目	数
校舎外部	外部の環境計画	14	外部の環境計画	18	校庭	24
	体育館	11	校庭	15	外部の環境計画	24
	防音壁	3	屋上運動場	2	古民家・民俗資料館	9
	門の位置	3	体育館	3	アプローチ・登下校	6
	沿道整備計画	3	プール	1	塀・フェンス	2
	屋上プール	3	アプローチ	3	水車	2
	建物の色	1	建物の色	1	水車	1
	昇降口	1	昇降口	1	緑地取得	1
	供養棟・モニュメント	1	ブルムナード	1	ブルムナード	1
	1	1	1	1	1	1
校舎内部	学習環境	7	オープンスペース	16	普通教室	13
	障害児の学習環境	3	新しい空間の要望	10	仮設校舎	12
	図書室	2	音楽室	3	オープンスペース	9
	トイレ	2	BOP室	6	ランチルーム	7
	日照・換気・通風	2	「きこえとことば」の学級	6	教室数・余裕教室	6
	資料展示コーナー	1	教室数	4	施設の配置位置	6
		1	風通し	1	動線	6
		1	日当たり	1	BOP	5
		1	冷房	1	特別教室	4
		1	渡り廊下	1	オープンスペースの音環境	4
全体計画	校舎配置	9	敷地	13	公園・幼稚園・道路の一体的な計画	19
		9	内部と外部の関係	4	道路横断	10
		9		4	敷地	9
		9		4	コミュニティ棟・スペース・ゾーン	6
		9		4	構築	4
		9		4	校舎棟と給食調理室の一体的な計画	1
		9		4		1
		9		4		1
		9		4		1
		9		4		1
学校像	船橋小らしき教育面	1	船橋小らしき	7	給田小らしき	10
		2	学校について	6	楽しい学校	2
		2	子供のための環境づくり	4	子供のための環境づくり	2
		2	残すものについて	2	教育の多様化	2
		2	教育の充実	2	授業の充実	1
		2	来やすい小学校	1	来やすい小学校	1
		2	通いたくなるような小学校	1	通いたくなるような小学校	1
		2		1		1
		2		1		1
		2		1		1
地域性	地域交流・地域開放	12	地域交流・地域開放	36	地域開放・地域交流	14
		12		36	まちづくり	2
		12		36	生涯学習	1
		12		36		1
		12		36		1
		12		36		1
		12		36		1
		12		36		1
		12		36		1
		12		36		1
安全性	意見について	3		7		25
	維持管理	0		10		9
	他校の参考事例について	0		6		8
	工事中について	6		22		7
	コスト	11		5		7
	近隣への影響	6		2		6
	防災	0		1		4
	計画案の選択	6		5		2
		1		20		27
		1		20		27
その他	検討について	7	検討内容について	0	児童数	9
	児童の参加	8	衛生面	1	給食	4
	報告書	1	給食	1	学校の情報発信	1
	建物の寿命	2	委員会の感想	1	スケジュール	3
	接着剤・塗料	2	非常時のトイレ	1	使用時間・利用効率	1
	今後の予定	2		1	今後について	1
	材料	1		1	アレフ	1
	防犯	1		1		1
	騒音	1		1		1
		1		1		1

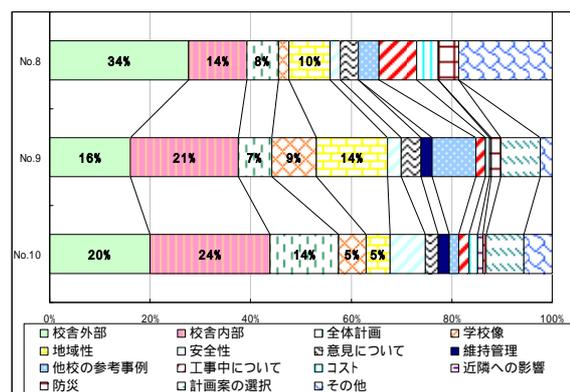


図2 基本構想検討委員会における情報内容の構成比

なく、それぞれの立場の人々の総意としての意見を反映させる場とすることを望んでいるといえる。このことは、今後さらに基本構想検討段階において市民参加の機会が設けられるきっかけにつながると考えられる。

3.2 地域住民アンケート

調査年月日：平成9年1月23日～29日

配布範囲：

- ・ 烏山中学校 PTA, 烏山北小学校 PTA, 給田小学校 PTA, 武蔵丘小学校 PTA
- ・ 学区域内町会

回収数：31件

地域住民アンケートの内容は、学校改築の計画時に配布される「学校改築だより」によって配布されている。アンケート内容は、学校改築に関する意見・要望である。地域住民アンケートの回答項目と回答数を表5に示す。回収数は31件であるため、統計データとしては有効ではない。表5より、地域住民アンケートでの回答項目をみると、全ての項目に対して No8～No10 事例の検討委員会議事録でも同様の意見が挙げられていることがわかる。

表5 地域住民アンケートの回答項目と回答数

回答項目	回答数
1. 周辺環境について	2
2. 学校配置案について	9
3. 校舎について	9
4. 工事中の学校運営について	9
5. 防災について	4
6. 複合施設について	5
7. その他	9

3.3 生徒アンケート

調査年月日：平成9年5月30日

学年	1年	2年	3年	合計
生徒数	150	164	183	497
回答数	143	136	143	422

アンケート回収率：85%

生徒アンケートにおける、アンケート項目と回答数を表6に示す。表6より、アンケート項目をみると、「烏山中学校について」では、生徒の学校生活での実態を把握することができる。「児童館について」と「温水プールについて」は、新しい施設の特色であり、地域への開放施設でもある施設に対する生徒の意識を把握するものである。このアンケート結果は回収率が高く、生徒の意識を把握する上で有効といえる。

また、生徒アンケートが学校改築にどの程度反映される結果となったかについては、今後の課題とする。

表6 生徒アンケートの内容と回答数

アンケート項目		回答数
1.	烏山中学校について	
	現在の学校で気に入っているところ	
1.1	図書館 校庭が広い 体育館が広い	44 17 13
	現在の学校で嫌いなところ	
1.2	トイレが汚い・臭い 古い・汚い校舎 クーラーがない	135 106 72
	休み時間はどこにいますか	
1.3	教室 廊下 校庭 図書館	247 97 89 50
	新しい学校の例の写真を見ての感想	
1.4	良い・うらやましい 学校らしくない 広い	112 58 29
	こんな学校にしたい	
1.5	売店・自動販売機がある エレベーター・エスカレーター 温水プール 楽しく、きれいで、ゆったりとした学校 全室冷暖房	33 32 26 26 21
2.	児童館について	
	児童館のイメージ	
2.1	子供の集まる場所 楽しい場所 気軽に立ち寄れる場所 入りづらい つまらない	59 24 23 17 12
	烏山中学校に児童館がくることについて	
2.2	問題が起こりそうなので作らない方が良い 良い	152 107
	中学生になって児童館に行ったことがありますか	
2.3	理由 1) Yes 115 遊び イベント 2) No 296 つまらない 暇がない 知らない 3) 児童館の名前を変更すれば行きますか 行く 86 行かない 211	41 24 80 58 38
	魅力ある児童館	
2.4	体育施設の充実 パソコン・ゲーム 自由室 音楽室	57 41 20 15
3.	温水プールについて	
	温水プールができることについて	
3.1	良い やめた方がよい	253 56
	プールに対する希望	
3.2	更衣室を広くてきれいに プールを広く 遊べるプール 更衣室にシャワーを	118 55 44 25

3.4 児童館利用者アンケート

調査年月日：平成9年5月末日～6月初旬

配布場所：烏山児童館

回収数：68件

烏山児童館の烏山中学校への移転に伴い、児童館利用者に対して、移転に関する意見等をきいたものである。児童館利用者アンケートの回答項目と回答数を表7に示す。表7からわかるように、児童館が中学校と併設されることに対する意見が最も多くなっている。具体的な意見

内容としては、「中学校と併設することで他の学校の児童・生徒の児童館を利用しづらいのではないか」という併設することに対して危惧している意見が多い。

児童館利用者アンケートについても、学校改築にどの程度反映される結果となったかについては今後の課題とする。

表7 児童館利用者アンケートの回答項目と回答数

回答項目		回答数	
1.	烏山中学校の建替えと一緒に児童館をつくることについて	20	
2.	新しい児童館について		
2.1	新しい児童館には、どんなものがあつたら良いと思いますか	15	
2.2	新しい児童館には庭を設ける予定があります。この庭では、どんなことをしたいですか	6	
3.	今の児童館について		
3.1	あなたは月に何回利用していますか。また、何歳ですか	利用回数	63
		年齢	61
3.2	今の児童館で気に入っているところはどんなところですか	14	
3.3	今の児童館で嫌いな所、または改善してもらいたいところはどこですか	21	
4.	その他	14	

3.5 児童の思い(絵・作文)

対象校の校長先生が児童を学校改築に参加させたいという思いから、5年生の新しい学校への思いを書いた作文と6年生の新しい学校への思いを描いた絵を紹介したものである。

世田谷区学校改築事例においては、No.9 事例から「子供ワークショップ」として、総合学習の時間を利用し、学校改築への児童の参加が行われている。また、「子供ワークショップ」の結果を検討委員会、地域住民、保護者に報告する機会が設けられている。

児童が学校改築に参加することは、公共施設づくりを通じた児童の教育の場や地域のコミュニティ形成の場につながると考えられる。

4. 市民参加方法における有効性の評価

「学校改築基本構想報告書」に記載されている市民参加方法について、前章による市民参加方法別の情報内容の分析から、基本構想段階における市民参加方法の有効性が確認できた。

学校改築において有効となるものとしては、「基本構想検討委員会議事録」がある。検討委

員会においては、地域住民の代表者の構成比が5割となっており、代表者が意見・要望を出し合いながら基本構想案をまとめることができる。意見内容としては、全事例において建築計画に関する意見内容が全体の5割前後を占めている。また、「生徒アンケート」は回収率が85%と高いため、学校改築に対する生徒の意識を把握する上では有効となる。

「地域住民アンケート」は回収数が少ない、「児童館利用者アンケート」は学校改築にどのように反映していけるのかわからない、「児童の思い」は児童の考えであるといったことから、これらは学校改築に有効であるとは言い切れない。しかし、市民参加の機会として、これらの市民参加方法があることは、様々な立場の人々が意見をだす機会となる。このことは、市民参加型公共施設づくりにおける、地域施設としての帰属意識につながるといえる。また、学校改築において児童の学校改築に参加する機会があることは公共施設づくりを通じた児童の教育の場や地域のコミュニティ形成の場につながると考えられる。

5. 今後の課題

今後の課題として、市民参加方法がどの程度公共施設づくりに反映されているのかについて分析し、市民参加方法の有効性について評価していく必要がある。また、今回は基本構想段階における調査であったが、その他の段階においても調査が必要である。

【注】

* 1 星川瞬, 広田直行「市民参加型公共施設づくりに係る情報内容・提供主体・提供手法 - 世田谷区立小・中学校事例を対象として - 」, 第23回地域施設計画研究シンポジウム, 2005年7月 pp.17~22